

虫歯の治療

今月は神農が担当です。当然のように文字多めです。
まず最初にちょっとだけお知らせがあります。
長い間お世話になりましたまき歯科ですが、
実はこの度、卒業することになりました。
みなさんの笑顔にパワーをもらっていつも楽しく過ごさせてもらっていました。
本当にありがとうございました！というわけで、
最後は私の専門でもあり、歯医者の中でも基本の基本「むし歯」について、
治療方法の歴史を踏まえて振り返ってみることにしましょう。

科学となる前の時代

むし歯の治療は、時代とともに大きく変わってきました。
昔は原因がよくわかっておらず、痛みを取ることが中心でした。
先史時代には歯に穴をあける処置が行われていましたが、これはあくまで痛みをやわらげるためのものでした。
ちなみに、応急処置をしてはアリなので、今でも行うことはあります。
少し時代が進んだ古代から中世にかけては、むし歯の原因は「歯の中にある虫」と考えられており、治療は抜歯や薬草、呪術などに頼っていました。
これは今となっては全くもってナンセンスという状態ですね。



科学時代の幕開け

時は進んで18世紀。
歯科医学が体系的にまとめられ、近代歯科の基礎が作られました。
さらに19世紀後半には、むし歯を削って詰める治療の方法を確立しました。
この時代は「むし歯は削って治すもの」という考え方が中心で、悪いモノは取っ払え、という概念です。
直す、ということについてはどれだけキレイに詰められるかが重要とされていました。これが最初のむし歯治療の時代と言ってよいでしょう。

キレイに詰めることは今でも重要ではありますが、一番重要なことではなくなっています。
むし歯の発生メカニズムの解明そしてその後、20世紀中ごろになるとフッ素の利用が広まり、むし歯は予防できる病気だと考えられるようになりました。
また、むし歯は単なる穴ではなく、細菌や生活習慣が関係する病気であることもわかってきました。むし歯の原因だけではなく、その原因からどのように発生するかのメカニズムが明らかになり、それに合わせて対処方法が変化していった時代です。そのため、治療は「削る」だけでなく、「進行を止める」「再発を防ぐ」ことが大切になりました。多様化時代ともいえるでしょう。

オーダーメイド時代

では、今はどうなっているかというと、できるだけ歯を削らない「最小限の治療」が主流です。必要な部分だけを処置し、フッ素やケアによってむし歯の進行を抑えます。つまり、現代のむし歯治療は「悪くなったら削る」から「むやみやたらに手を出さず、必要な部分のみ治療して、悪くならないように管理する」へと変わっています。
そして、その状態に合わせた治療や予防が重要とされているのです。むし歯一つ一つ、あるいは患者さん一人一人に合わせたオーダーメイド治療へと変革している時代といえるでしょう。
そして未来今の研究のトレンドを見る限りは、ゲームチェンジャーとなるような事態は当分起きそうにありません。それに、まだオーダーメイド治療は進化の途中です。しばらくは今の治療が洗練されていく時代となるでしょう。



最後に、ありきたりですが一言。
「むし歯にはならないのが一番!適切な予防を心がけましょう!」

公式LINE
始めました!



医療法人SHT
まき歯科・矯正歯科クリニック
Smile Health Thanks